

創刊二二〇年記念座談会 PART I

——編集のメンバーたち——

2016.3.28 於・佐佐木邸

佐佐木幸綱＋晋樹隆彦（編集OB）

黒岩剛仁・斎藤佐知子・大野道夫・鈴木陽美・高山邦男・田中薫・藤島秀憲・佐佐木頼綱

☆一九八二年に一〇〇〇号記念号

幸綱「心の花」が二〇一八年で創刊百二十年となります。記念号の雑誌あるいは記念大会をこれから企画するわけです。そんな時に当たって、「心の花」のこれまでがどういう時代だったのか、どういう人たちが活躍をしたのか、どういう方たちが亡くなっていったのか、どういう歌集が出たのか、どういうところで全国大会をやったのかなど、そんな話をみんなでできたらと思います。最初からやるわけにはいかないの

で、一〇〇〇号記念号が出た一九八〇年代以後ぐらいをしやべつたらどうかと思います。

今日は編集会のメンバー七人と選歌委員で元編集部の晋樹君に来てもらいました。谷岡重紀君が作ってくれた年譜（一四〇〇号所載）を参考にします。黒岩君は仕事の都合で少し遅くなるそうです。

「心の花」七〇〇号（一九五七・二月）は四三〇ページと厚いのが出たんだが、八〇〇号（一九六五・六月）はやや薄い。二六六ページ。ちょうど僕は忙しくなりはじめた

時でね。それでも、塚本邦雄さん、金子兜太さんの三十枚ほどの論文が載っている。九〇〇号（一九七三・一月）も薄かった。一九〇ページ。この号では僕が「佐佐木信綱未発表詠草」として、「明治二四年一月から一月」までの信綱の作歌ノート「小鈴詠草」を翻刻。解説を付けました。

一九八二年二月号の一〇〇〇号になってやっと少し立派なものが出ます。このときは一月に九九九号、二月に一〇〇〇号、三月に一〇〇一号と三号連続で記念号を出すということ、たいへん力を入れました。